第３学年ＥＳＤ(総合的な学習の時間）学習指導案

日時　平成２８年６月２８日（火）５校時
場所：３学年教室　授業者：久保田　淑恵

１　単元名　　「白方のよさを見つけようＩ」（農村公園での活動から）

２　児童の実態

本学級の児童は、昆虫や木の実を採取したり草花を使って遊んだりするなど、自然に触れあう活動が大好きである。また、素直で活発であり、興味・関心をもったことに熱心に取り組む。自分の考えや思いを意欲的に発表することができる一方で、自分の考えを話せたことに満足してしまい、友達の考えを自分の考えと比べながら聞くことができない児童が多い。このようなことから、友達の考えと比較しながら聞くことができるよう取り組んでいるところである。

３　ＥＳＤの視点に立った学習指導について

（１）教材について

総合的な学習の時間に初めて取り組む第３学年では、児童にとって身近な学校や白方の地域を活動の場としている。子どもたちは、２年生の生活科で地域での体験的な活動をしてきており、３年生の社会科では学校の周りの様子について絵地図にまとめる学習をしてきた。このように学習における地域とのかかわりは大きく、地域のよさに触れる活動は意義深いと考える。

本単元は、総合的な学習の時間の目標の構成の（２）「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する能力や資質を育成する」に属する学習である。対象となる事象への体験活動を大切にするとともに、それらを通してまた新たな課題を見つけ、さらなる問題の解決を始めることができるようにする必要がある。この学習は、３年生理科の「こん虫をそだてよう」３年生社会科の「市の様子」４年生の総合的な学習の時間「わたし達を取り巻く環境」へとつながっていくものである。

本単元では、地域の中でも身近な農村公園を取り上げる。農村公園は校地に隣接しており、日常的に観察することができる子どもたちに身近な所である。

（２）持続可能な社会づくりとの関連

日常生活の中で身近な自然とのふれ合いや、地域の人々と関わり合う機会が乏しくなっている現状を踏まえ、農村公園での体験活動は、身近な自然の存在とそのよさを実感させるものである。学習対象に繰り返しかかわる過程で、「いろいろな植物や生き物がみられる」「生き物の育ち方には違いがある」というように、対象を意識してとらえられるようになる。

この学習を通して「身近な自然の存在とそのよさ」を実感し、「地域の自然が自分たちとどのようにつながっているのか」等関心を高め、日常生活の中に活かしていくことのできるものと考える。

なお、本単元では、「持続発展可能な社会づくりの構成概念」のうち、「Ⅰ多様性」「Ⅱ相互性」から設計することにより、ＥＳＤの視点に立った学習指導が展開できると考える。

（３）本単元の学習指導で重視する能力・態度の内容とその指導

＜多様な観点から考え、見通しを持ってよりよい解決策を考える力＞

・・農村公園周辺で見られる生き物の生態などについて、既習事項や生活経験と関連づけながら考えることができる力

＜気持ちや考えを交流させ、協力して取り組む態度＞

・・友達の考えを聞いたり交流したりして、さらに自分の考えを深めようとする態度

＜さまざまな人や社会、自然などのつながりを尊重する態度＞

・・農村公園には様々な生き物がいることに気づき、これからそれらと自分のとのかかわりを大切にしようとする態度

これらの能力・態度を育てるために、次のような点に留意して指導を進める。

① 自分の体験をもとにした話し合いができるようにするために、体験活動の時間を十分に確保する。

② ゲストティーチャーから地域の自然について話を聞く活動を通して、自分の課題決定にいかしていけるようにする。

③ 調べたことや活動したことを絵や文、写真で集積し、掲示することで次の活動の見通しとなるようにする。

４　単元の目標

白方の自然にふれ、農村公園の「すてき・びっくり」を探す活動を通して、地域のよさに気づき大切にしていこうと感じることができる。

５　指導計画と評価基準（総時数　１７時間）

段階	主な学習活動 （時数）	多様な観点と見通し （学習方法）	交流と協力 （他者や社会）	つながり （他者や社会）	主体的・計画的 （自分自身）
課題の設定	農村公園の「すてき・びっくり」をさがそう。（２） ・自分たちの知っている農村公園について話し合う。 ・農村公園について調べたいことを決める。　＜本時＞	農村公園について、自分の経験と関連づけたり今までの学習と関連づけたりして、自ら課題を見つけている。	農村公園について自分の考えを話したり、友達の考えを聞いたりして、積極的にコミュニケーションを行っている。		
情報の収集	農村公園を調べよう。（８） ・調べ方について知る。 ・観察や採取等を通して農村公園の「すてき・びっくり」をさがす。 ・カードにまとめ、調べたことを発表し合う。 ・農村公園についてｹﾞｽﾄﾃｨﾁｬｰに話を聞く。 ・課題ごとにグループをつくり、再度農村公園を調べる。	農村公園について、情報を収集するための方法を考えている。	農村公園について、他者と協力して、情報を収集している。	農村公園について、自分とのつながりや自然や社会とのつながりに目を向けて、活動している。	農村公園について、主体的に情報を収集してる。
整理・分析	調べたことをまとめよう。（５） ・グループで見つけた課題の解決に向けて整理する。 （図書室・インターネット等） ・調べたことを分かりやすい表現方法でまとめる。 ・発表に向けて準備・練習をする。	農村公園について収集した情報を、比較したり、分類したり、関連づけたりして整理・分析している。	自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりしながら、友達と協力して収集した情報の整理・分類をしている。		まとめや発信につながるように考えて、収集した情報を整理・分析している。
まとめ・表現	調べて分かったことを発表しよう。（２） ・農村公園の「すてき・びっくり」発見発表会をする。 ・友達の調べたことを聞いて考えたことを話し合う。	誰に何を伝えたいのかを指揮して、まとめや発信の方法を考えている。	友達と協力したり、友達の意見を聞きながら、よりよいまとめ方や発信のしかたを考えている。	農村公園について、自分とのつながりや自然や社会とのつながりに目を向けて、まとめたり発信したりしている。	

６　ねらい ＜第２時＞

農村公園について自分なりの思いをもち、友達と話したり書いたりする活動を通して、調べたいことを決めることができる。

7　指導過程

段階	学習内容・活動	時間	○指導上の留意点　＊ＥＳＤの視点に立った留意点・評価＜ＥＳＤで重視する能力・態度＞
導入	1　前時の確認と本時のめあてをつかむ。 農村公園の「すてき・びっくり」について調べたいことを決めよう。 (考えられる視点) ・草花　・樹木　・昆虫 ・水中生物　・小動物 ・もの　・人	１５	○写真を掲示しておき、農村公園の様子を想起できるようにする。 **＊前時に記入したイメージマップから、本時の学習につなげる。＜多様な観点と見通し＞** ○イメージマップに書き加えるようにさせる。
展開	2　調べたいことをカードに書く。 （予想されるもの） ・こん虫　・ザリガニ ・草花　・小動物	１０	○カードは１枚に一つ書くようにさせる。 ○なかなか書けない児童には写真を提示し、何のどんなことについて書くかを選べるようにする。 **＊書くときに、イメージマップから、何のどんなことについてどこまで調べたいのか考えられるようにさせる。＜多様な観点と見通し＞** ・農村公園を散策したことを思い出し、視点を決めて書いているか。（つぶやき・カード）
	3　カードに書いたものを発表し合い、全員で確認する。 ・似ているところ ・違うところ ・調べたいことを決める。	１５	○一人一人が自分の思いを発言できるようにする。 **＊事柄だけでなく、調べたい理由や思いなどを話させるようにする。＜交流と協力＞** **＊似ているところ、違うところを確認することで、みんなが同じように感じていること、感じ方は一人一人違うことがあることに気づかせるようにする。＜多様な観点と見通し＞＜交流と協力＞** ・友達と話したり書いたりすることを通して、自分の調べたいことを決めることができたか。（発表・カード）
終末	4　本時の学習をふり返り、感想を伝え合う。	5	○クリヤーケースを提示し、活動記録を集積していくことを知らせ学習意欲を高めるようにする。

（３）授業研究の様子（ＥＳＤの視点に立った能力や態度を育成するための手立てに沿って）

＜ **導入段階「前時の確認と本時のめあてをつかむ」**＞

①　前時に記入したイメージマップから、本時の学習につなげる。　＜多様な観点と見通し＞

白方の「すてき・びっくり」なところについて、一人一人がイメージマップに記入していたものを整理して掲示することで、自分や友達がイメージしたことを視覚的にとらえることができた。

○　農村公園で見られる昆虫や植物などの写真を併せて掲示したことで、身近な場所を改めて学習の対象として意識してとらえることができた。

●　つぶやきや発言を拾い上げ、補足してつなげ、広げていくのが難しかった。

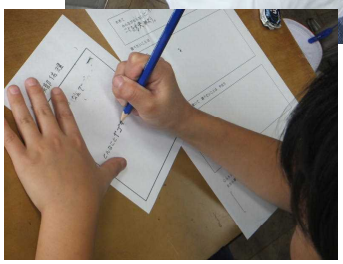
＜展開段階「めあてに対して、調べたいことをカードに書く」＞

①　カードに書くときに、イメージマップから、何のどんなことについてどこまで調べたいのか考えられるようにさせる。　＜多様な観点と見通し＞

調べたいことをカードに書くことで、これからの活動の出発点であることを意識付けさせるとともに、自分の思いを言葉によって整理する手だてとした。

○　日常的に活動している場所であるだけに、生活経験と結びつけ、自分の調べたいことを自分の言葉で書くことができた。

●　「なに」の「どんなこと」を調べたいのか、分けて書くことに戸惑いが見られた。迷いが解消できるように書き方の例示が必要であった。



②　事柄だけでなく、調べたい理由や思いなどを話すようにする。　　＜交流と協力＞

カードに書いた事柄を発表し合い、思いを共有させた。

○　話したい、友達に教えたいという思いからどの児童も意欲的に発言していた。
○　調べたい事柄に対して、自分なりの根拠や思いを明確に持っていることが発言やつぶやきから伺えた。
●　発表したいという思いが強いあまり、発表したことに満足し、友達の考えを自分の考えと比べながら聞くことができない児童も見られた。

③　似ているところ、違うところを確認することで、みんなが同じように感じていること、感じ方は一人一人違うことがあることに気づかせるようにする。
＜多様な観点と見通し＞　＜交流と協力＞

友達の考えを聞くことで、自分の考えを広げたり、つながりを見つけたりすることができた。

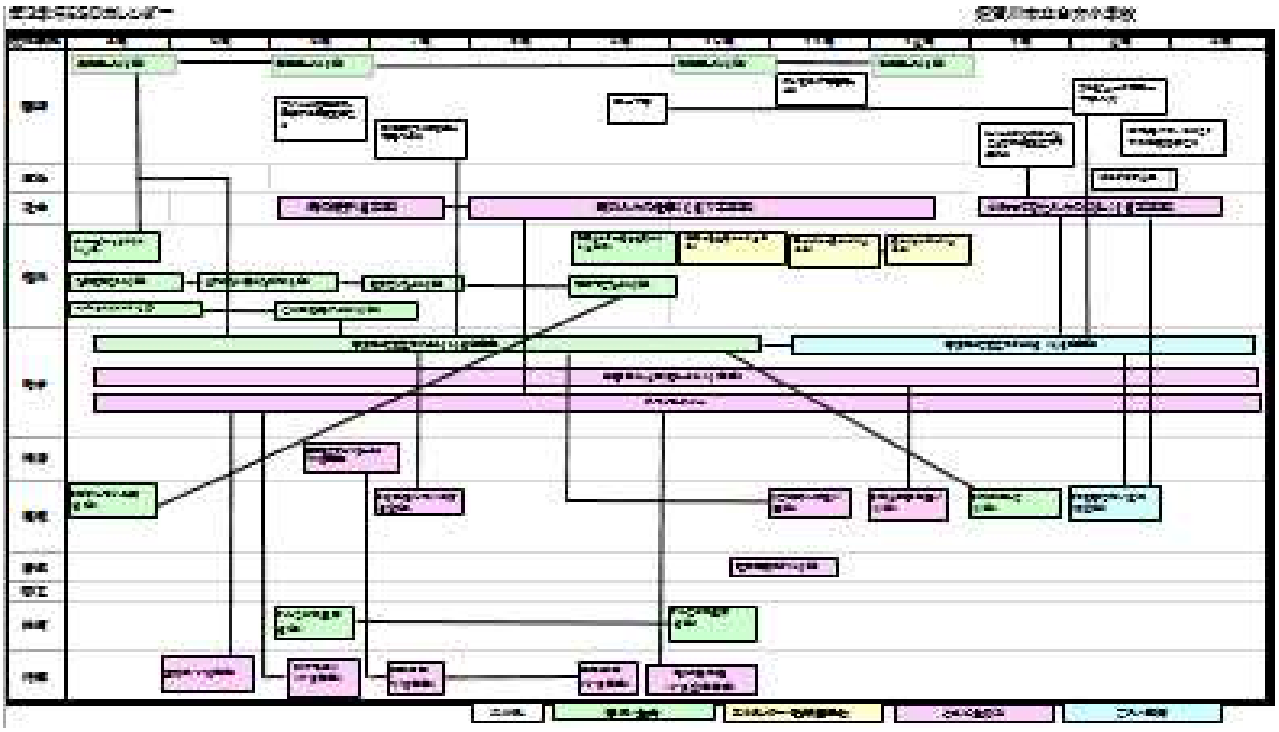
○ カードを黒板に貼るようにしたので、みんなで見合い、その場で感想などを交流する姿が見られた。
● 似ているところや違うところはどんなところかといった視点を明確にできるような投げかけが必要であった。

＜終末段階「本時の学習を振り返る」＞

○　全員が調べたいことをカードに書き、それらを黒板に貼ることにより、自分や友達の考えを視覚的にとらえ、活動の見通しを立てることができた。
●　カードを読むための時間がかかってしまい、類似点や相違点について、全体で共有化することは、十分に行うことができなかった。

（４）今年度の実践の成果と課題

①今年度の実践を振り返って



３年生の総合的な学習の時間のテーマ
「白方のよさを見つけよう」

２年生では生活科で地域での体験的な活動をしてきており、３年生では社会科でも身近な地域について学習する。

このように学習における地域とのかかわりは大きい。３年生の総合的な学習の時間で地域のよさにたくさん触れる活動はとても意義深い。

学習のきっかけとして、子ども一人一人の「近所のたから」や「近所のひみつ」「近所のじまん」から学習をスタートした。また、社会科「学校のまわり」の単元に合わせ、２年生と一緒に、地域にある桜の名所「笹原川の千本桜」を見学した。千本桜まで歩いたことで地域の広さやよさについて「見る・感じる」ことができた。

遠くに足を運ばなくても、児童にとってより身近な場所「農村公園」がある。校地に隣接しておりビオトープもあり、木立に囲まれた草地である。休み時間には虫取りやザリガニ取りなど、楽しい遊び場になっている。遊びの対象から学習の対象として取りあげることにより、動物や植物、それらにかかわる人や自然と直接かかわることを通して、身近な自然のよさを実感させた。

農村公園の構成樹木の一つである赤松の立ち枯れが顕著になり、１学期に松食い虫対策の消毒散布が行われた。児童はその様子を教室から間近に見ていた。２学期には被害が大きかった松の木の伐採作業が行われた。それまでは、農村公園に見られる昆虫やザリガニの生態に関心が集まっていたが、「なぜ消毒をするのか」「なぜ松の木を切り倒してしまうのか」「原因は何か」に関心が広がっていった。そこで、図書室の本やコンピュータを使って松枯れの原因や対策など、新たな疑問について調べることにした。

まとめを行うに当たっては、国語科で学習した内容（「だれに」伝えたいのか、伝える相手によって話す内容や言葉づかいも変わること）について再確認した。併せて、まとめる方法（新聞、ポスター、パンフレット、冊子、寸劇など）を紹介した。課題が同じ児童で班を作り、取り組めそうな方法を話し合い、作業を進めさせた。

②　白方小学校のＥＳＤの視点に立った学習指導で育む能力・態度について

＜多用な観点から考え、見通しを持ってよりよい解決策を考える力＞

○　農村公園に繰り返し行くことで、興味や関心の変容が見られるようになった。昆虫探しやザリガニ取りなどをしたりして、日常的に楽しんでいた対象物の小さな変化にも目を向けられるようになってきた。「それは当たり前の現象」として完結するのではなく、「ん？どうして？」と、立ち止まって考えてみるおもしろさを、感覚的に持つことができるようになってきた。

●　自分なりの思いを持ち意欲的に事象と触れ合うことはできるが、友達の考えのよさを受け入れたり、それらから考えを広げたりすることは個人差が大きい。既習事項や生活経験と関連づけながら考えることができるような投げかけを意図的にしていきたい。

＜気持ちや考えを交流させ、協力して取り組む態度＞

○　各教科においても、ペアやグループ学習を行ってきた。ペアを替えたり、○人以上に伝えるなどの条件を出したりすることで､なかなか自分の思いを話すことができなかった児童も、話し方の型に当てはめ、自分の思いを言葉で伝えることができるようになってきた。

●　発表意欲にあふれている児童が多いが、話の聞き方に課題がある。友達の話を自分の考えと比べながら聞き、よさを認めたり、取り入れたりすることができるようにしていきたい。そのためには、友達の話を聞く力をさらに高めていく手だてが必要である。

＜さまざまな人や社会、自然などとのつながりを尊重する態度＞

○　農村公園での活動を通して、様々な生き物がいることに気づくことができた。

●　今後はさらに、農村公園を始めとする地域の自然が自分たちとどのようにつながっているのかに関心を持たせたい。そのために、放射性物質の掘り起こしが行われ、立ち入り禁止になっている農村公園の現在の様子から思うことや疑問を取り上げていきたいと考えている。

＜よりよい未来をめざし、その実現に向けて主体的・計画的に取り組む態度＞

○　学校行事や校外学習の実施に当たっては、事前に活動内容を説明し、見通しやめあてを持たせて取り組ませてきた。また、４年生と一緒に活動する機会が多いのでその機会をとらえて３年生としてどのように取り組めばよいかを考えさせてきた。その結果、徐々にではあるが、中学年らしい行動ができるようになってきた。

●　体験したことが普段の生活や次の学習等に活かしきれていないと感じることが多い。考えを伝え合う場を設け、つながりを広げるようにしていきたい。そのためには、異学年との交流機会を意図的に設定していく必要がある。